

2 なたね

(1) 国際的ななたね需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省(USDA)の見通し>

【生産量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 -
 生産量は、インド等で増加するものの、カナダ、中国、ウクライナ等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回り66.1百万トンとなる見込み。

【消費量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 -
 消費量は、インドで増加するものの、中国、EU、カナダ、米国で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回り67.5百万トンとなる見込み。

【貿易量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 -
 世界全体の貿易量は、前年度より減少し、12.6百万トンとなる見込み。
 国別には、輸出国では、豪州、ロシアで増加し、カナダ、ウクライナ、EU等で減少する見込み。輸入国では、EU、中国、パキスタン等で減少する見込み。

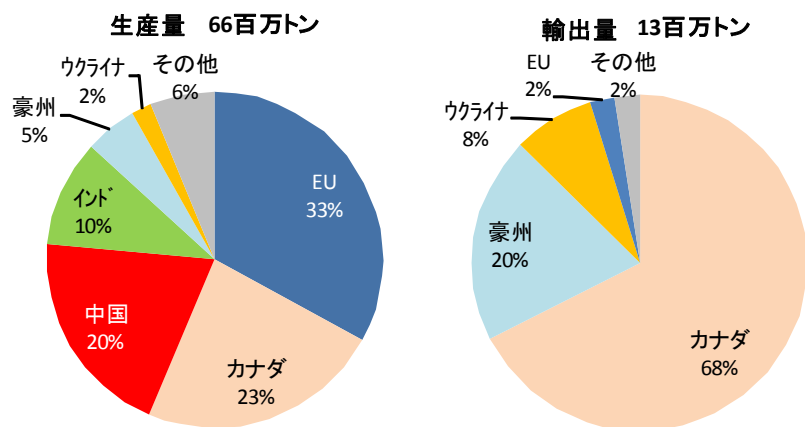
【期末在庫量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑
 期末在庫量は、前年度より減少し、世界全体で3.5百万トンとなる見込み。国別には、インドでわずかに在庫が積み増しされるものの、カナダ、中国、EU等で取り崩される見込み。期末在庫率は5.3%と前年度より低下する見込み。
 なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、EUで上方修正された。

表-1 世界のなたね需給（米国農務省）

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.4	68.2	66.1	-	▲ 3.1
EU	24.6	22.1	21.8	-	▲ 1.1
カナダ	16.4	17.2	15.5	-	▲ 9.9
中国	14.8	14.3	13.3	-	▲ 7.0
インド	5.1	5.9	6.8	-	▲ 15.6
豪州	3.4	3.0	3.3	-	▲ 10.0
ウクライナ	2.2	1.7	1.3	-	▲ 25.5
米国	1.1	1.3	1.3	-	▲ 3.2
消費量	71.0	70.0	67.5	-	▲ 3.6
うち搾油用	67.6	66.8	64.6	▲ 0.0	▲ 3.2
EU	26.3	25.2	24.0	-	▲ 4.8
中国	18.9	19.0	17.4	-	▲ 8.2
カナダ	8.0	8.6	8.1	-	▲ 6.1
インド	5.2	5.9	6.8	-	▲ 14.4
日本	2.5	2.5	2.5	-	-
米国	1.8	1.6	1.5	-	▲ 4.7
メキシコ	1.5	1.5	1.5	-	-
貿易量	15.1	13.8	12.6	-	▲ 8.1
(輸出)					
カナダ	9.2	9.3	8.6	-	▲ 8.1
豪州	2.8	2.4	2.5	-	▲ 4.2
ウクライナ	2.0	1.4	1.0	-	▲ 28.6
EU	0.6	0.4	0.3	-	▲ 14.3
米国	0.2	0.1	0.1	-	▲ 23.1
ロシア	0.1	0.0	0.1	-	▲ 42.9
(輸入)					
中国	4.6	4.2	3.8	-	▲ 8.4
EU	2.3	3.0	2.3	-	▲ 23.3
日本	2.5	2.5	2.5	-	-
メキシコ	1.6	1.5	1.5	-	-
ブラジル 首長国連邦	0.8	0.7	0.7	-	▲ 3.4
パキスタン	0.9	0.7	0.6	-	▲ 7.7
米国	0.8	0.3	0.3	-	-
期末在庫量	7.0	5.1	3.5	0.1	▲ 30.0
カナダ	2.3	1.8	0.8	-	▲ 57.1
EU	1.9	1.4	1.2	0.2	▲ 14.4
中国	1.5	1.0	0.7	-	▲ 30.0
インド	0.3	0.3	0.3	-	▲ 19.2
豪州	0.4	0.2	0.2	-	▲ 6.3
日本	0.1	0.1	0.1	-	▲ 2.0
アルゼンチン	0.1	0.1	0.1	-	▲ 10.6
期末在庫率	9.8%	7.2%	5.3%	0.2	▲ 2.0

図-1 世界のなたねのシェア(2016/17年度)



資料：USDA「PS&D」、[Oilseeds: World Markets and Trade] (10 June 2016)

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】(詳細は右表を参照)

<米国農務省の見通し>

生産量は、収穫面積が減少し、単収も低下することから、前年度より減少し、15.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より減少し、8.1百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より減少し、8.6百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も4.5%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダ農務農産食品省「Outlook for principal field crops」(2016.5.18)によれば、2016/17年度のなたねの播種面積は7.8百万ヘクタールと、前年度(8.1百万ヘクタール)を3.7%下回る見込み。これは、なたねの収益性は高いものの、近年の病害虫被害に伴う投入コストの増加により、他の作物と比べ、純利益が圧縮されつつあることが要因と見られている。

州別の作物報告によれば、アルバータ州では昨年と同様、今年も平年より早い雪解けを迎え例年より早く播種作業が開始され、2016年6月上旬までにはほぼ終了した。その後は、温暖湿潤型の天候に恵まれ作物は順調に生長、6月14日現在の作柄は、良/やや良が74.5%と前年同期(41.0%)、過去5年平均(71.7%)を上回っている。サスカチュワン州でも、概ね温暖で乾燥した天候に恵まれ、播種作業は平年を上回るペースで進展、5月30日現在の播種進捗率は94%とほぼ終了した。6月13日現在、作物の生長に適した天候に恵まれ、作柄は良/やや良が大半を占めている。マニトバ州では、冷涼湿潤型の天候により播種作業に遅れが生じたが、6月13日現在、産地の大部分で播種作業は終了、初期生育の段階(ロゼッタ期)に入っている。一部地域では土壌水分過多により黄化などの被害が発生している。

【貿易情報・その他】

カナダ農務農産食品省「Outlook for principal field crops」(2016.5.18)によれば、2015/16年度の輸出量は10.0百万トンと、2014/15年度(9.2百万トン)を9.2%上回り史上最高となる見込み。これは、国内に潤沢な供給能力があること、また、パキスタン、バングラデシュ、アラブ首長国連邦等への輸出が急増しているため。2016年4月のカナダドルの上昇により、なたねの値上がりはある程度抑制されたが、マレーシアやインドネシア等の干ばつによるパーム油の減産により、なたね油の価格は維持されている。また、世界的な油糧種子の需要増が大豆油等の価格を支えており、これがなたね価格の維持に繋がっていると見られている。2016/17年度の輸出量は、世界需要が依然として旺盛なものの、供給量の減少により、9.2百万トンと2015/16年度を8.0%下回る見込み。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2015年数量ベース 87.6%)
 世界の生産量シェア 2位 (2016/17年度 23.4%)
 輸出量シェア 1位 (2016/17年度 67.6%)

表-2 カナダのなたね需給(市場年度:8月~翌年7月)

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.4	17.2	15.5 (15.4)	-	▲ 9.9
消費量	8.0	8.6	8.1 (8.2)	-	▲ 6.1
うち搾油用	7.4	8.1	8.0 (…)	-	▲ 1.2
輸出量	9.2	9.3	8.6 (8.0)	-	▲ 8.1
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	2.3	1.8	0.8 (0.7)	-	▲ 57.1
期末在庫率	13.5%	9.8%	4.5% (4.3%)	-	▲ 5.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.34	8.10	7.75 (7.77)	-	▲ 4.3
単収(t/ha)	1.97	2.12	2.00 (1.98)	-	▲ 5.7

資料: USDA 「PS&D」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、
 「World Agricultural Production」 (10 June 2016)
 AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (18 May 2016)

写真 カナダ・アルバータ州 (2016年5月31日撮影)
 -5月15日に播種されたなたね畑-



写真提供: Gerry Good 氏

イ 豪州

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、3.3百万トンとなる見込み。

消費量は、ほぼ前年度並みの0.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、2.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、ほぼ前年度並み、期末在庫率は4.5%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.5.26)によれば、2016/17年度の実産量は、なたねの収益性が大麦等の他の穀物より高いことから播種面積が増加し、3.3百万トンと2015/16年度(2.9百万トン)を11.1%上回る見込み。

現地調査会社によれば、なたねの播種作業は、西オーストラリア州で2016年3月上旬に開始され、その他の州では4月から開始された。5月末現在、各州の播種進捗率は、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州で95%、南オーストラリア州で98%、西オーストラリア州で100%と、ほぼ終了した。

ウ ウクライナ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より減少し、1.3百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より減少し、0.3百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より減少し、1.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、ほぼ前年度並み、期末在庫率は1.1%に上昇する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」によれば、2016/17年度の実産量は1.2百万トンと、2015/16年度(1.8百万トン)より29.1%減少すると見込まれている。これは、2015年秋の冬なたねの播種時期に寒冷・乾燥型の天候に見舞われ、播種面積が減少したため。この天候により、作物は十分な初期生育の機会を得られないまま冬季を迎え冬枯れの拡大が懸念されたが、十分なスノーカバーに恵まれ、被害は最小限に抑えられた。

ウクライナ気象センター(2016.5.26)によれば、2016年4～5月は降雨に恵まれ、作物の生育に適した天候となった。現地調査会社によれば、5月末現在、冬なたねは着莢期に入っており、作柄は総じて良好から並みとなっている。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2015年数量ベース 12.4%)
世界の生産量シェア 5位 (2016/17年度 5.0%)
輸出量シェア 2位 (2016/17年度 19.8%)

表-3 豪州のなたね需給 (市場年度: 12月～翌年11月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.4	3.0	3.3 (3.2)	-	10.0
消費量	0.8	0.8	0.8 (…)	-	1.2
うち搾油用	0.8	0.8	0.8 (…)	-	-
輸 出 量	2.8	2.4	2.5 (2.3)	-	4.2
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	-
期末在庫量	0.4	0.2	0.2 (…)	-	▲ 6.3
期末在庫率	10.0%	5.0%	4.5% (…)	-	▲ 0.5

(参考)

収穫面積(百万ha)※	2.82	2.40	2.60 (2.45)	-	8.3
単収(t/ha)	1.22	1.25	1.27 (1.32)	-	1.6

資料: USDA「PS&D」,「World Agricultural Production」(10 June 2016)

ABARES「Australian commodities」(21 June 2016)(※ABARESは作付面積)

世界の生産量シェア 6位 (2016/17年度 2.0%)
輸出量シェア 3位 (2016/17年度 7.9%)

表-4 ウクライナのなたね需給 (市場年度: 7月～翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.2	1.7	1.3 (1.4)	-	▲ 25.5
消費量	0.3	0.4	0.3 (…)	-	▲ 14.2
うち搾油用	0.3	0.4	0.3 (…)	-	▲ 14.3
輸 出 量	2.0	1.4	1.0 (…)	-	▲ 28.6
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	-
期末在庫量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	7.7
期末在庫率	0.8%	0.7%	1.1% (…)	-	0.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.88	0.68	0.50 (0.60)	-	▲ 26.5
単収(t/ha)	2.50	2.58	2.60 (2.30)	-	0.8

資料: USDA「PS&D」,「World Agricultural Production」(10 June 2016)

OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(17 June 2016)

エ EU

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より減少し、21.8百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より減少し、24.0百万トンとなる見込み。

輸入量は、前年度より減少し、2.3百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も4.9%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量、輸入量、期末在庫量で上方修正された。結果として、2016/17年度の期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄等】

EUのなたね生産は、例年8～9月に播種作業が行われ、翌年6～7月に収穫される。米国農務省(USDA)「WORLD AGRICULTURAL WEATHER HIGHLIGHTS」(2016.6.10)によれば、フランスからイタリア、バルカン半島にかけて、2016年5月の多雨により洪水が発生し、作物の品質悪化や単収低下が懸念されたが、6月上旬には乾燥型の天候となり、6月上旬現在の作柄は、欧州の大部分で良/やや良を維持している。

国際穀物理事会(ICG)「Grain Market Report」(2016.5.26)によれば、2016/17年度のなたね輸入量は、EUのバイオ燃料部門によるなたね油需要の低迷に伴い、前年度より13%減少し2.8百万トンとなる見込み。

オ 中国

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より減少し、13.3百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より減少し、17.4百万トンとなる見込み。

輸入量は、前年度より減少し、3.8百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も4.0%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

中国のなたね生産は、長江中・下流域を中心に、例年10～11月に播種作業が行われ、翌年5～6月に収穫される。2016/17年度の播種作業は、2015年9月中旬より開始され10月下旬に終了した。長江中・下流域では、5月中旬に降雨が続き局地的には暴風雨となり、収穫作業が一時中断したものの、中国中央気象台「農業気象週報」(2016.6.5)によれば、6月上旬までに収穫作業はほぼ終了した。

世界の生産量シェア 1位 (2016/17年度 33.0%)
輸入量シェア 2位 (2016/17年度 18.5%)

表-5 EUのなたね需給 (市場年度: 7月～翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、0はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	24.6	22.1	21.8 (22.0)	-	▲ 1.1
消費量	26.3	25.2	24.0 (24.8)	-	▲ 4.8
うち搾油用	25.4	24.3	23.1 (24.0)	-	▲ 4.9
輸出量	0.6	0.4	0.3 (0.4)	-	▲ 14.3
輸入量	2.3	3.0	2.3 (3.1)	-	▲ 23.3
期末在庫量	1.9	1.4	1.2 (1.0)	0.2	▲ 14.4
期末在庫率	7.0%	5.4%	4.9% (4.1%)	0.6	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.75	6.50	6.40 (6.69)	-	▲ 1.5
単収(t/ha)	3.64	3.39	3.41 (3.30)	-	0.6

資料: USDA 「PS&D」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」 (10 June 2016)
EU 「Balance sheets for cereals, oilseeds and rice」 (26 May 2016)

世界の生産量シェア 3位 (2016/17年度 20.1%)
輸入量シェア 1位 (2016/17年度 30.5%)

表-6 中国のなたね需給 (市場年度: 10月～翌年9月)

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、0はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.8	14.3	13.3 (8.5)	-	▲ 7.0
消費量	18.9	19.0	17.4 (…)	-	▲ 8.2
うち搾油用	18.3	18.4	16.8 (…)	-	▲ 8.4
輸出量	…	…	… (…)	…	…
輸入量	4.6	4.2	3.8 (…)	-	▲ 8.4
期末在庫量	1.5	1.0	0.7 (…)	-	▲ 30.0
期末在庫率	7.9%	5.3%	4.0% (…)	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.59	7.30	7.00 (5.00)	-	▲ 4.1
単収(t/ha)	1.95	1.96	1.90 (1.70)	-	▲ 3.1

資料: USDA 「PS&D」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」 (10 June 2016)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」 (17 June 2016)